

4 研究のまとめ

(1) 研究の考察

視点Ⅰ 一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させることができたか。

視点Ⅱ 道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めることができたか。

ア 視点Ⅰについて

「一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させることができたか」について、「心の学び記録」「道徳ノート」「心の種」における児童生徒の記述を基に見取りました。「心の学び記録」「道徳ノート」「心の種」の手立てごとに、記述分析のポイント①～③のうち、どのポイントを見取るのかを以下のように設定しました（表 1）。

「心の学び記録」・「道徳ノート」・「心の種」の記述分析のポイント

- ① 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしているか。
- ② 自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしているか。
- ③ 複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしているか。

表 1 視点Ⅰの見取りについて

手立て	ポイント①	ポイント②	ポイント③
心の学び記録	○		
道徳ノート	○	○	○
心の種		○	

(ア) 「心の学び記録」の記述分析

「① 判断の根拠や心情を様々な視点から捉えているか」について、「心の学び記録」では授業でねらいとする内容項目の質問において、以下のような回答が得られました（表 2）。

表 2 「心の学び記録」－視点Ⅰ ポイント①

*上段：小学校は 4 月、中学校は 5 月、下段：11 月の割合 **n = 70**

対 象 内容項目	質 問 項 目	自己判断と 根拠あり	自己判断の み根拠なし	無回答
小学 6 年 C－(12)	なぜ法やきまりがあるのかを理解し、それを大切にし、守ろうとしている。	78%	22%	0%
		100%	0%	0%
中学 1 年 C－(16)	ふるさとの伝統と文化を大切にしたり、地域の人と一緒にふるさとの行事に参加したりしている。	59%	41%	0%
		91%	9%	0%
全 体 の 割 合		年度初め		
		11 月		
		68%	32%	0%
		95%	5%	0%

さらに、11 月の「心の学び記録」の記述を詳しく分析すると、以下のような結果となりました（表 3）。

- A 判断の根拠があり道徳的価値に照らして自己を肯定的に捉えている。
- B 判断の根拠があるが道徳的価値に照らして自己を否定的に捉えている。
- C 判断の根拠となる記述がない。

表 3 「心の学び記録」－視点 I ポイント①

n = 70

対 象 内容項目	質 問 項 目	判断の根拠あり 価値に肯定的(A)	判断の根拠あり 価値に否定的(B)	判断の根拠なし (C)
小学 6 年 C－(12)	なぜ法やきまりがあるのかを理解し、それを大切にし、守ろうとしている。	86%	14%	0%
中学 1 年 C－(16)	ふるさとの伝統と文化を大切にしたり、地域の人と一緒にふるさとの行事に参加したりしている。	59%	32%	9%
全 体 の 割 合		72%	23%	5%

以上の結果、「心の学び記録」の記述より、児童生徒が 4、5 月から道徳科の授業を経て 11 月までの一定の期間で道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えられるようになったことがうかがえます。

(イ) 「道徳ノート」の記述分析

「① 道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情を様々な視点から捉え考えようとしているか」について、小学校における「道徳ノート」の記述を分析しました。その結果、多くの児童が判断の根拠を持ち、様々な視点から考えようとしていたことがうかがえました（図 1）。

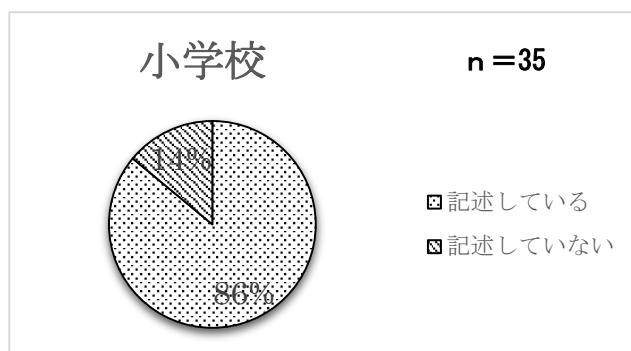


図 1 「道徳ノート」－視点 I ポイント①

「② 自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしているか」について、中学校における「道徳ノート」のウェビングと板書の写真を分析しました。その結果、全ての生徒がグループや学級全体での話し合いを通して、池田学さんの佐賀愛について、多面的・多角的に考えようとしていたことがうかがえました（次頁図 2）。



図 2 「道徳ノート」－視点 I ポイント②

「③ 複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動を多面的・多角的に考えようとしているか」について、小学校における「道徳ノート」の記述を分析しました。その結果、多くの児童が立場を変えたり、起こり得ることを予測したりして考えようとしていたことがうかがえました（図 3）。

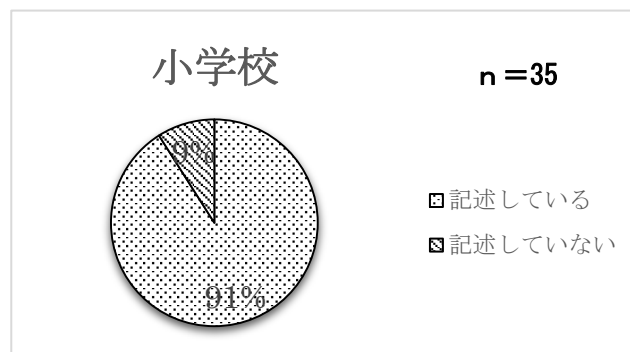


図 3 「道徳ノート」－視点 I ポイント③

以上の結果から、児童生徒は 1 単位時間の授業の中で、①道徳的価値に関わる問題に対する判断の根拠やそのときの心情、②自分と違う立場や感じ方、考え方の理解、③複数の道徳的価値の対立が生じる場面において取り得る行動の 3 点を多面的・多角的に捉えようとしていたことがうかがえます。

(ウ) 「心の種」の記述分析

「② 自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしているか」について、「心の種」の記述を分析すると、次のような結果が得られました（図 4）。



図 4 「心の種」－視点 I ポイント②

以上の結果から、児童生徒は 1 単位時間の授業の中で、自分と違う立場や感じ方、考え方を理解しようとしていたことがうかがえます。

これらの結果をまとめると、問題解決的な学習展開の過程において「心の学び記録」「道徳ノート」「心の種」を記述させたり、振り返らせたりすることで児童生徒は、道徳的価値に対して一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展させることができたと考えます。

イ 視点Ⅱについて

「道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めることができたか」について、「心の学び記録」「道徳ノート」「心の種」における児童生徒の記述を基に見取りました。「心の学び記録」「道徳ノート」「心の種」の手立てごとに、記述分析のポイント①～④のうち、どのポイントを見取るのかを以下のように設定しました（表 4）。

「心の学び記録」・「道徳ノート」・「心の種」の記述分析のポイント

- ① 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしているか。
- ② 現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直しているか。
- ③ 他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めているか。
- ④ 他者と議論する中で、道徳的価値の実現することの難しさを自分のこととして捉え考えようとしているか。

表 4 視点Ⅱの見取りについて

手立て	ポイント①	ポイント②	ポイント③	ポイント④
心の学び記録		○		
道徳ノート	○	○	○	○
心の種	○	○	○	○

(7) 「心の学び記録」の記述分析

「②現在の自分を振り返り、自らの行動を見直しているか」について、「心の学び記録」の自己評価の記述を基に、児童生徒の意識の変容を分析しました（図 5）。

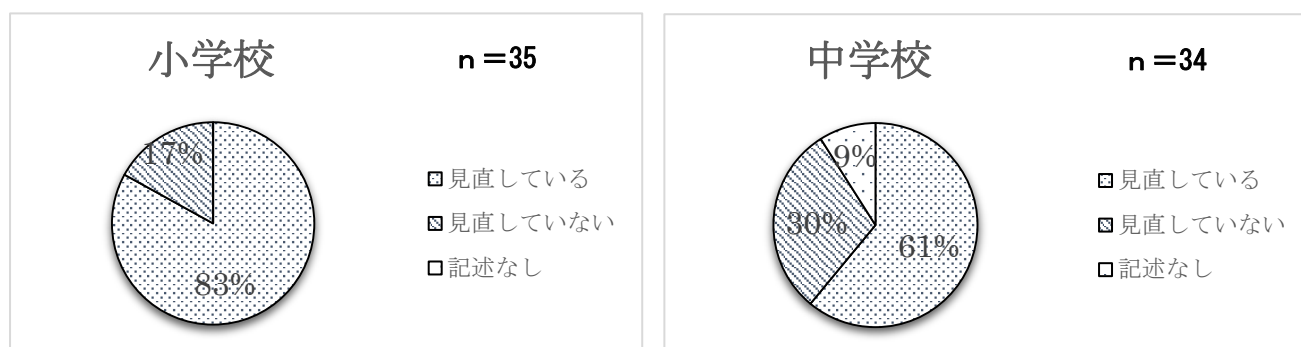


図 5 「心の学び記録」－視点Ⅱポイント②

以上の結果から、「心の学び記録」の記述により、多くの児童生徒が現在の自分を振り返り、自らの行動を見直すことができたことがうかがえます。また、「心の学び記録」を年度当初に記述させたことで、個々の児童生徒及び学級全体の見取りを行うことができ、児童生徒の実態把握を行った上で、授業を実践することができました。

(イ) 「道徳ノート」の記述分析

①から④のそれぞれについて、「道徳ノート」の記述を詳しく分析し、次のような結果が得られました。

「① 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしているか」について（図 6）

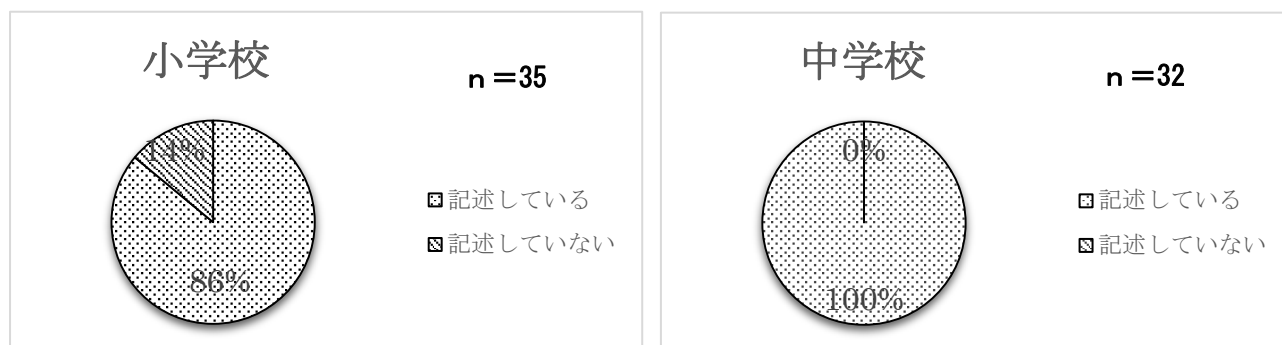


図 6 「道徳ノート」－視点Ⅱポイント①

「② 現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直しているか」について（図 7）

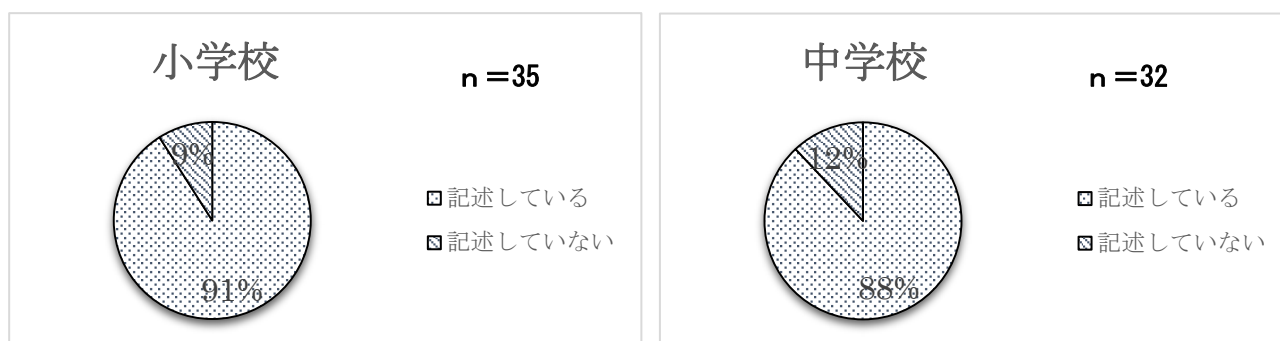


図 7 「道徳ノート」－視点Ⅱポイント②

「③ 他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めているか」について（図 8）



図 8 「道徳ノート」－視点Ⅱポイント③

「④ 他者と議論する中で、道徳的価値の実現することの難しさを自分のこととして捉え考えようとしているか」について（図 9）

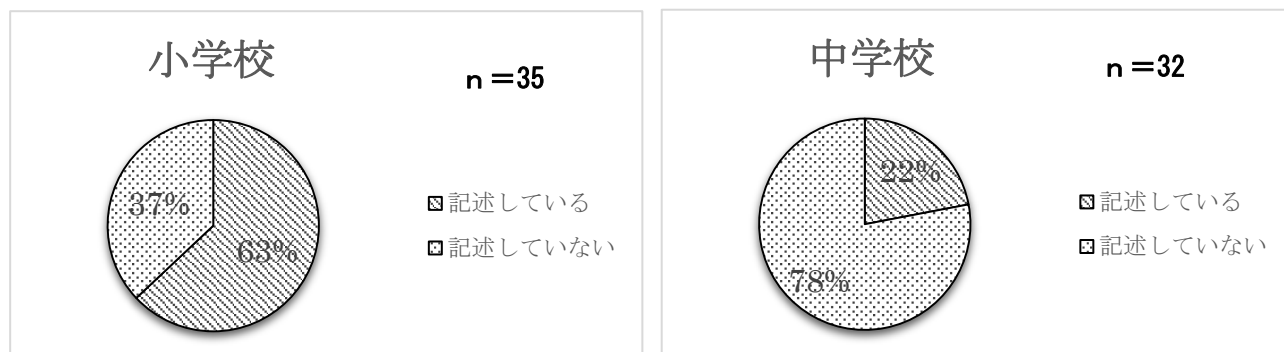


図 9 「道徳ノート」－視点Ⅱポイント④

以上の結果から、児童生徒は 1 単位時間の授業の中で、ポイント①～④の複数またはいずれかのポイントにおいて道徳的価値を自分自身との関わりで捉えていたことがうかがえます。

（ウ） 「心の種」の記述分析

「心の種」の記述を以下のポイントで分析したところ、次のような結果が得られました（図 10）。

「① 読み物教材の登場人物を自分に置き換えて考え、自分なりに具体的にイメージして理解しようとしているか」

「② 現在の自分自身を振り返り、自らの行動や考えを見直しているか」

「③ 他者と議論する中で、道徳的価値の理解を更に深めているか」

「④ 他者と議論する中で、道徳的価値の実現することの難しさを自分のこととして捉え考えようとしているか」

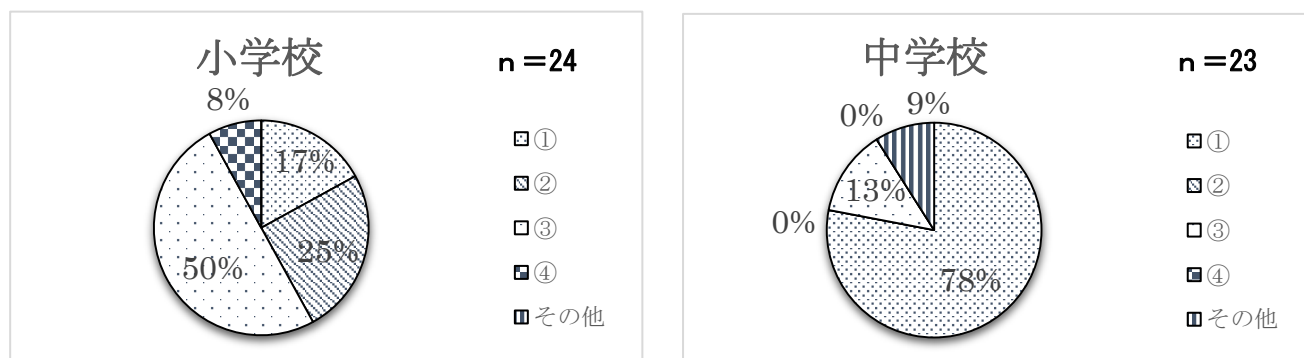


図 10 「心の種」－視点Ⅱポイント①②③④

以上の結果から、ほとんどの児童生徒は、1 単位時間の授業の中で、①～④のポイントの複数またはいずれかのポイントにおいて道徳的価値を自分自身との関わりで捉えていたことがうかがえます。

これらの結果をまとめると、1 単位時間における問題解決的な学習展開の過程において「道徳ノート」「心の種」を記述させることで道徳的価値の理解を自分自身との関わりで捉えることができるようになると考えます。また、これを繰り返したり、振り返らせたりすることで児童生徒は、一定の期間で道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めることができたと考えます。

4 研究のまとめ

(2) 成果と課題

ア 成果

道徳科における児童生徒の学習状況及び成長の様子についての評価を提案することができました。

- 「心の学び記録（道徳的価値に係る自己評価シート）」「道徳ノート」「心の種（道徳的価値に係る相互評価カード）」を用いて授業実践に取り組みました。実践を通して、これらをどのように活用し、どのようにして記録を蓄積していけばよいか、具体的な方法を示すことができました。
- 記録として蓄積した資料をどのような視点で見取り、通知表や指導要録にどのように記載すればよいのか具体的な文例を示すことができました。

イ 課題

道徳科における評価をいかに道徳的实践につなげるかについては、具体的な手立てを探っていく必要があります。

- ・ 授業における相互評価の進め方と通知表や指導要録の記載文への生かし方
- ・ 一定の期間に記録として蓄積した資料の見取り方
- ・ 道徳科における評価の家庭への伝え方及び連携の取り方

以上の手立てを工夫していくことで、児童生徒の道徳的实践につなげることができると考えます。しかしながら、これらの他にも有効な手立てを探っていくことも必要であると考えます。いずれにしても、計画的かつ継続的に取り組んでいける評価の手立てについては実践と検証を重ねていくことが大切であると考えます。